おはようございます。令和６年度もいよいよ三学期終業式を迎えました。この一年間を振り返っていかがだったでしょうか。学校行事、部活動、生徒会活動、とんぼ祭、学校外での得意分野のチャレンジ等、思い返してみるといろいろなことに挑戦してきたことが、頭をよぎるのではないでしょうか。自分で判断し、行動を起こし挑戦すること、自治の精神を実現するためにはとても大切な過程です。

深志の自治とは何か、この自治について今年の同窓会報の記事に書かれていたことに目が止まりました。今年９月に行われた今年度同窓会総会で、先日の探究成果発表会でも発表して下さった「自動縄回し機」のチームと、「スタンディングデスク」のチームが、資金援助を求めることもあって、はじめて同窓会の大先輩方の前で探究のプレゼンを行いました。それをご覧になった、同窓会報編集委員の方が、同窓会報の記事に、探究学習について「深志の自治と親和性の高い学習活動です」と記述しているのです。私は同窓会で探究学習の説明をする際に、深志の自治と関連付けた説明などは一切していません。しかし探究学習のプレゼンを聞いた先輩たちは、自分たちが行ってきた部活動や生徒会活動等、様々な深志での活動と、この探究学習の共通点を一発で見抜いたということでしょう。自分たちの自主性で、仲間と協働しながら、互いに意見を戦わせながら、自分たち自身で社会を構成していく、先輩方が行ってきたことと探究学習の成果を堂々と発表する姿に、ダブって見える何かがあったに違いありません。言い換えると先輩たちが形成してきた自治の延長線上に、皆さん方が取り組んでいる学習があるのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。だからこそ、再来年に迫った 150 周年記念事業では、集めた寄付金で建物を建てたり、機材機器に使うのではなく、自治の精神を育ててくれるであろう探究学習の支援や海外研修支援にかなりの部分を支出するという方向性を、同窓会として決定したのだと思います。

さて、今お話ししましたように、本校は令和８年に創立 150 周年を迎えるのですが、この 150 周年にあたり、来年の 10 月 17 日(土)にキッセイ文化ホールにて、記念式典を実施します。この 150 周年記念事業の一環として、先ほど申し上げたような母校の学習支援事業のほか、音楽会や美術展などの文化的事業、さらには 150 周年誌の発行も予定され、すでに執筆作業が始まっています。深志高校の前身である松本中学は 1876 年(明治 9 年)、まだ中南信が筑摩県だったころに、地域の人々の要望と寄付金によって設置され、おおやけには第 17 番変則中学校と呼ばれていました。変則というのは、カリキュラムや学校の設備の上でまだ正式な中学校とは言えない、準中学校のようなイメージだと思われます。翌年、中南信が長野

県に編入されると、正式な第 18 番中学校に、そして３年後には公立松本中学校という名称になりました。ただこのころはお堀の南にあった、旧開智学校や師範学校の校舎の一部を借りて授業をしていましたので、校舎の上では独立した中学校とはなっていなかったようです。明治 17 年に県立中学に移管され、18 年（1885 年）に現在の松本城二の丸に新校舎が落成されて中学専用の校舎ができ、本格的に長野県立松本中学校の歴史がスタートします。この年の 10 月に行われた開校式はきらびやかで、街をあげてのお祭りとなったので、松本中学では毎年十月に行う文化祭を「記念祭」（開校記念祭という意味ですね）と呼ぶようになったそうです。そう考えると、松本中学の歴史は 1885 年がスタートのような気もしますが、一応本校では昔から第 17 番変則中学のおこった、1876 年を原点として周年事業を行ってきているようです。

ところで、現在の松本城の二の丸に学校があったら、便利だったと思いませんか。校舎の老朽化により立て直しが議論となった昭和初期、やはり現地改築派も存在していたようです。ただ、敷地が狭いことや、改築時の代替校舎の問題、学校が移転すれば市民のための公園をつくり、一気にお城周辺部の再開発を行おうとの市の計画により、移転が決まったようです。移転場所についてはかなりの候補地があったようですが、市街地からそれほど遠隔地でなく、眺望も効き、松本中学の寮の一つであった尚志社（今の教育会館の場所にあった）にも近いということから、現在の場所が選定されたようです。当時のこの周辺はアルプス公園から続く斜面の一部でしたが、住宅はほとんどなく、一面桑畑でした。長野県は製糸産業が盛んでしたから、水はけのよい、日当たりの良い斜面は、一面桑畑だったんですね。この広大な桑畑のなだらかな斜面に、明倫坂から、北側の部室脇にある赤い階段につながる細い道路とこまくさ道路の歩行者専用信号から東門に至る斜めの細い道路の２本の道路が交差しているだけの土地でした。時代は世界恐慌の影響で製糸業が不振を極める中、この桑畑を買い取った長野県は、二本の交差する道路をぶったぎる形で桑畑を取っ払い、敷地を平らにして中学校を建設し、この区画を取り囲むように新しい道路を作ったというのが、校舎建築の顛末であったというわけです。昭和 10 年（1935 年）に竣工していますので、現在の一棟、講堂は今年で 90 周年を迎えることとなりますね。

その後戦争の期間中は国の要請により、一時松本医学専門校の校舎になったこともありましたが、昭和 23 年に松本中学から新制松本深志高校に移行し、現在に至ります。こうした 150 年の歴史を積み重ねた本校は、先ほど申し上げた通り来年 10 月に 150 周年記念式典を執り行うわけです。

２年生の皆さんは深志 78 回卒業生として、１年生の皆さんは現役の３年生として立ち会うこととなります。この 4 月からは同窓会の準備も本格化してきますので、生徒の皆さんにもご協力をお願いすることになるかもしれません。例えば現段階で決まっているのは、150 周年のシンボルマークを生徒の皆さんに募集することとなっています。また生徒の皆さんにも、一緒に式典をプロデュースしてもらえないかという打診もきています。長野県の高校で初めての 150 周年事業に遭遇することになる皆さんには、周年事業に立ち会える、しかも 150 年という、かなりレアな節目の年との、廻りあわせに、ご縁を感じていただければありがたいなあと思っています。

私もこの 3 月一杯で本校を去りますが、実は同窓会で制作中の 150 年誌の執筆分担を何カ所か任されていて、来年度中に原稿を提出しなければなりません。まだ一行も書いていませんので、きっと今後も図書館などに資料をあさるために伺うことになると思います。また、記念式典の翌週に予定されている第九の演奏会には、何とか練習に参加してステージに乗ることができればとも思っています。この深志高校に校長として３年間お世話になったこのご縁を、「面倒」とか、「忙しい」とかで片付けるのではなく、せっかくですので、探究的な心持で、150 周年事業にかかわっていけたらなあと感じています。私もこれからの仕事のために、勉強して知識を身につけなければならないこともたくさんありますし、できれば将来的には何らかの形で幸福空間形成のお役に立ちたいとも思っています。皆さんから学んだ探究的な姿勢を自分も見習って活かしていきたいと思っています。

さて、最後に、２、３年生に進級する皆さん。おめでとうございます。ここからとんぼ祭まで、様々な場面で様々な挑戦を迎えることとなります。きっと全力で取り組んでくれることと思いますが、悔いが残ることもいっぱいあると思うんですね。ただ、人生はまだまだこれから。悔いの残ったことこそ、これからの人生に活かすべきことだと思います。取り返しのつかないことなどない、そう信じて参りましょう。３年生の皆さん、とんぼ祭あけ頃から、自分と向き合う厳しい日々が待っているかもしれません。最後まで学校を信じて、目標に向かってください。学習がはかどらなかったり、基礎力不足を感じて、学校に食らいつくことをあきらめた人たちも時々います。でもね、それは逃げなんですよ。苦しくても学校には支援してくれる人、ヒントをくれる人がたくさんいます。入試のその日まで、学校を信じてみてほしい、そのことを皆さんに伝えて、終業式のご挨拶といたします。